

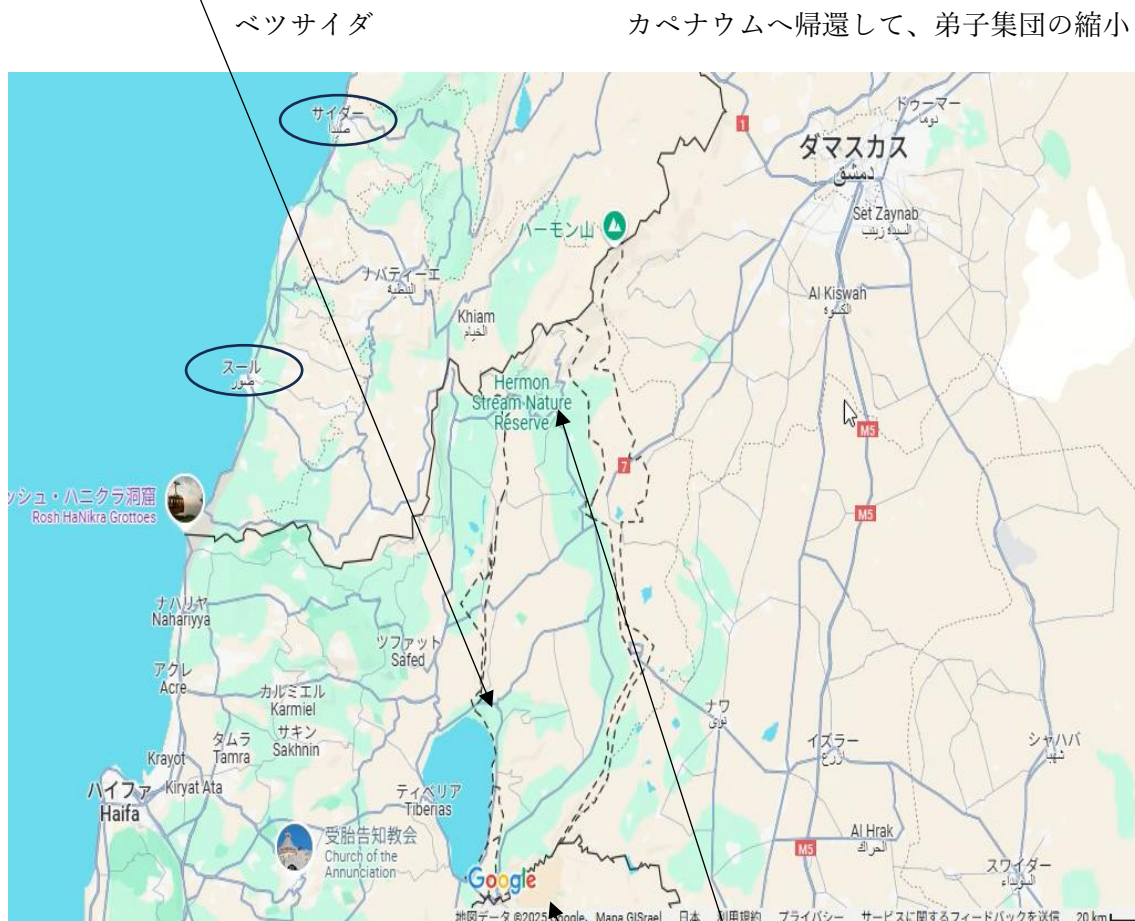
ペテロの信仰告白とイエスの変貌

□前回のハイライトからのつながり (下の地図は、現代です)

五千人の給食と弟子集団の縮小

異邦人地域へのリトリート1回目

カペナウムへ帰還して、弟子集団の縮小



異邦人地域へのリトリート第2回 ツロとシドン (現代の地名スールとサイダー)

異邦人地域へのリトリート第3回 デカポリス地方 四千人の給食の奇跡

ペテロの信仰告白とイエスの変貌

異邦人地域へのリトリート4回目

ピリポ・カイサリア

ヘルモン山のふもと 変貌は山の上で

□アウトライン

- I. ペテロの信仰告白（マタイ 16：13～19）
- II. 死と復活の予告①（マルコ 8：31～33）
- III. 当時のユダヤ人信者で、キリストの弟子として歩もうとする者たちへの教え（マルコ 8：34～37、マタイ 16：24～26）
- IV. 啓示の約束（マタイ 16：27～28、マルコ 8：38～9：1、ルカ 9：26～27）
- V. 約束の成就 イエスの変貌（マタ 17：1～8、マルコ 9：2～8、ルカ 9：28～36a）

I. ペテロの信仰告白（マタイ 16：13～19）

1. 人々はわたしのことをだれだと言っているか

13～14節 さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」

- ピリポ・カイサリアの地方・・・ヘルモン山のふもと。ヨルダン川の水源のひとつ。深い谷は岩壁が覆いかぶさるようになっていて昼も暗い。
「ハデス（よみ）の門」と呼ばれた地域。水源では、岩壁から水が流れ出し、川床は小石、水は澄んで清流となっている、風光明媚な所。

2. あなたがたはわたしをだれだと言うのか

15～16節 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」

- 「あなたはキリストです！ 神の子です！ 生けるお方です！」

3. それを明らかにしたのは、ペテロの理解力ではなく、神である

17節 すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。

- バルヨナ・シモン・・・シモンはペテロの実名（ペテロはイエスが付けた呼び名）。バルヨナとは、「ヨナの子」の意味。「ヨナの子、シモン」と言っている。

るが、ペテロの父の名は、ヨナではなく、「ヨハネ」（ヨハネ1:42）。なぜ、イエスは、ペテロをヨナの子と呼んだのか？

- ① ヨナは、旧約聖書の預言者ヨナを指す。ヨナが神のメッセージを託されてニネベに行き、預言者として語ったように、ここでは、ペテロが神から託されたメッセージ「イエスはメシアである」を語ったから。
- ② ヨナは異邦人の町ニネベに遣わされた。同様に、ペテロも異邦人のために救いの門を開くことになる。

4. この岩の上に、わたしの教会を建ててであろう

18節a そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。

- ペテロは小さな「石」。岩は大きな「岩」。聖書で「岩」は、メシアを象徴。
- イエスと弟子たちが来ている場所は、ヨルダン川の源流。岩壁から水が流れ出し、川床は岩壁から砕かれ削られてできた石であった。イエスは、川床の小石を指して、「あなたはこの石である」と語り、岩壁を指して「この岩の上にわたしの教会を建ててであろう」と言われた。
- 教会は、メシアを土台石として、その上に建てられる。
- では、ペテロと教会とは、どのような関係にあるのか。教会の信者は、「イエスは主です」と告白して救われ、教会の一員とされる。その意味では、ペテロの告白、「イエスは生ける神の子キリストです」という信仰告白の上に、教会が建てられる、ということである。

エペソ3:11 だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

5. よみの門も教会に打ち勝つことはできない

18節b よみの門もそれに打ち勝つことはできません。

- イエスと弟子たちが来ている渓谷は、「ハデスの門（よみの門）」と呼ばれる場所であった。
- ハデスの門とは、死を意味する。「ハデスの門もそれに打ち勝つことはできない」とはどういう意味か。「それ」とは、岩の上に建てられたキリストの教会である。ハデスの門、すなわち死も、教会に打ち勝つことはできない。教会は、使徒たちが殉教して死んでも、なくならずに続くという意味である。

6. わたしはペテロに天の御国の鍵を与える

19 節 a わたしはあなたに**天の御国**の鍵を与えます。

- **天の御国**（マタイ）＝神の国（マルコ、ルカ、ヨハネ）
- 聖書の中で、神の国には5つの層がある。その一つは、霊的な神の国。どの時代にせよ、信仰によって救われた信者が入るのが、霊的な神の国である。そして、教会時代においては、信者となって霊的な神の国に入るということは、信者となってキリストのからだである教会の一員となるということ（＝聖霊のバプテスマを受ける）と同じである。
- ペテロは、聖霊のバプテスマによって教会の一員となる門を、3つのグループに対して、開いた。
 1. まずユダヤ人に開いた（使徒2章）
 2. 次にサマリア人に開いた（使徒8:17）・・・サマリア人：Ⅱ列17:24～41 アッシリア時代にバビロンなどから移住してきた異邦人の子孫。サマリアの地の神として主を礼拝すると同時に、自分たちの神々（偶像）にも仕えていた。
 3. そしてローマ人（異邦人）に開いた（使徒10:44）
- ペテロがイエスから受けた権威（天の御国の鍵）によって一度開かれた門は、閉じられることはない。

7. わたしはペテロに使徒としての権威を与える（マタイ16:19b）

19 節 b あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。

- つなぐ、解く・・・禁止したり許可したりする、有罪としたり無罪とする使徒の権威を指す。使徒の権威に関する事例は、「アナニアと妻サツピラの事件」使徒5:1～11。この事件では、アナニアとサツピラの夫婦は、ペテロによって有罪と判定され、肉体の死を受け取った。ただし、二人とも信者であり、教会の一員であり、自分の内側に聖霊の内住を受けた者たちであった。それゆえ、霊的な救い、永遠のいのちを失ったわけではない。
- このような使徒の権威は、使徒たちに限定されている。使徒の条件は、イエス公生涯において行動をともにした弟子（使徒1:22）、または復活のイエスに出会った弟子で、イエスの復活の証人となれること（Ⅰコリ15:8～9、1:1）である。よって、「使徒の働き」に登場する初代教会の使徒たちがその使命を終えた以降の教会には、使徒はいない。使徒は、初代教会の預言者とともに教会の土台となり、その上に教会が建て上げられる（エペソ2:20）。
- キリストの律法にどうしても従わない信者に対して、現代の教会ができることは、「異邦人か取税人のように扱う＝交わりから外す」（マタイ18:17～18）である。宗教裁判や体罰は、してはならない。

II. 死と復活の予告① (マルコ 8:31~33)

マルコ 8:31~33 それからイエスは、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。イエスはこのことをはっきりと話された。

するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。

しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

- はっきりと話された：たとえ話ではなく、明確に語った。しかし、弟子たちは理解しなかった。
- 下がれ、サタン：ペテロはこのとき、サタンからの影響を受けていた。サタンは、イエスをメシアとしての使命、すなわち全人類の罪の身代わりとなって死ぬという使命から遠ざけようと躍起であった。
- ペテロへの叱責がきっかけとなって、「弟子としてどう行動するか」についての教えが次に続く。霊的に救いを受けるかどうかではない。救いは人の行いによらず、神の恵みにより、信仰を通して受け取るものである。救われた信者がメシアの弟子としてどのように歩むべきか、特に当時のユダヤ人信者にとっては、失うもの、そして得られるものがある、という教えである。

III. 当時のユダヤ人信者で、キリストの弟子として歩もうとする者たちへの教え (マルコ 8:34~37、マタイ 16:24~26)

1. 群衆に、自分の十字架を負ってわたしに従って来なさい、というたとえ話

マルコ 8:34~37 それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるでしょうか。自分のいのちを買い戻すのに、人はいったい何を差し出せばよいのでしょうか。」

2. 弟子たちに、たとえ話 (解説がされたであろうが、解説は記録されていない)

マタイ 16:24~26 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者

は、それを見出だすのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるのでしょうか。そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。」

- 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失う・・・イエスをメシアと認めないならユダヤ指導層からの迫害を避けることができ、いったんは自分のいのちを救えるが、やがて起きるエルサレム陥落に巻き込まれて死ぬ
- わたしのためにいのちを失う者は、それを見出だす・・・イエスのために死ぬ者には、いのちが与えられるという約束。イエスをメシアと認めたために指導者たちから迫害されて死んだとしても、メシアの王国が始まるときに復活の体を受ける。
- 十字架を負って・・・十字架を負うとは、ただ命を奪われるだけでなく、そしりを受ける、辱められる、ということ。さらに自分ひとりだけでなく、家族も非難の対象となる。これは、イエスの弟子となることの代償を覚悟せよ、との意味。

IV. 啓示の約束（マタイ 16：27～28、マルコ 8：38～9：1、ルカ 9：26～27）

1. 弟子たちへの注意

マコ 8：38 だれでも、このような姦淫と罪の時代（世代）にあって、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るとき、その人を恥じます。

- この注意の対象者は、当時の世代のユダヤ人信者。イエスとイエスのことばを恥じるとは、弟子としての歩みをしなかったということ。IIIの続きである。
- その人を恥じる・・・キリストの裁きの座（Ⅱコリ 5：10）で、報奨を与えないということ。救いを失うとか、永遠のいのちを失うということではない。

2. 啓示の約束（マタイ 16：28、マルコ 9：1、ルカ 9：27）

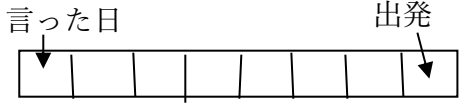
マコ 9：1 またイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」（二重下線部について、V.9. にて解説）

V. 約束の成就 イエスの変貌 (マタ 17:1~8、マルコ 9:2~8、ルカ 9:28~36a)

1. 時期 (マタ 17:1、マコ 9:2、ルカ 9:28)

(1) 六日目に→6日のあとで (マタ・マコ)

(2) 八日ほどして (ルカ)


2. 場所・・・「高い山」 (マタ 17:1) ピリポ・カイサリアの地域ではヘルモン山
3. 祈るために山へ。同行者は、十二使徒のうち、ペテロとヤコブとヨハネの3人
ルカ 9:28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。
4. ペテロたちは、眠くてたまらなかったが・・・
ルカ 9:32 ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、はっきり目が覚めると、イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。
5. イエスの栄光を見たというのは・・・イエスの姿が変わって、顔も衣も光輝いたこと
マタ 17:2 弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。
マコ 9:2b~3 彼らの目の前でその御姿が変わった。その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなし得ないほどの白さであった。
ルカ 9:29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。
6. イエスと一緒に立っている二人の人とは・・・モーセとエリヤ
マタ 17:3 そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。
マコ 9:4 また、エリヤがモーセとともに彼らの前に現れ、イエスと語り合っていた。
ルカ 9:30~31 そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤで、栄光のうちに現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。

 - 何を話していたか 後述 8.
 - なぜ、モーセとエリヤなのか 後述 9.
7. ペテロたちは恐怖に打たれていた・・・ペテロは何を言ってよいかわからなかったが、モーセとエリヤが帰ろうとしているのを見て、とっさに、神の国の到来を祝うつもりで「仮庵を3つ造りましょう」と声をかけた。しかし、それを口に行っているうちに、光り輝く雲がわき起こって彼らをおおい、彼らがその中に包まれると、父なる神の声が響い

た。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け。」この声で、さらに恐怖に打たれて、ペテロたちは地にひれ伏した。するとイエスが近づいて来て、彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない。」と言われた。彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。

- (1) マタ 17:4~8 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることはすばらしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け。」という声がした。弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。するとイエスが近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない。」と言われた。彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。

- 幕屋：仮庵の祭りのときに各家庭で造る仮庵（テント）。出エジプトのときの荒野での旅を記念するもの。旧約聖書のゼカリヤの預言（ゼカ 14:16）により、仮庵の祭りはメシアの王国を連想させる祭り。

- (2) マコ 9:5~8 ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることはすばらしいことです。幕屋を三つ造りましょう。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」ペテロは、何を言ったらよいのか分からなかったのである。彼らは恐怖に打たれていた。そのとき、雲がわき起こって彼らをおおい、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。彼の言うことを聞け。」彼らが急いであたりを見回すと、自分たちと一緒にいるのはイエスだけで、もはやだれも見えなかった。

- (3) ルカ 9:33~36a この二人が別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることはすばらしいことです。幕屋を三つ造りましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。」ペテロは自分の言っていることが分かっていなかった。ペテロがこう言っているうちに、雲がわき起こって彼らをおおった。彼らが雲の中にはいると、弟子たちは恐ろしくなった。すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであつた。

8. モーセとエリヤとの話の内容・・・イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。（ルカ 9:31）

- (1) エルサレムで遂げようとしておられる・・・十字架の死
(2) 最期・・・ギリシア語の本来の意味は、「出発」。「出エジプト」の「出」である。

奴隷状態にあったイスラエル民族を解放し、自由の民とした出発。

- ① イエスにとっては・・・【人となり、自らを制約して、人の肉体の中に神としての栄光を包み込んだ、その状態】からの出発。十字架のあとは、天に戻り再び、栄光に輝くお方となる。
- ② 信者にとっては・・・イエスの十字架の死によって、罪の奴隷から解放されて自由となること

9. 「メシアの王国が力をもって到来しているのを見る」（マルコ9：1）とは・・・

(1) 「メシアの王国が、到来しているのを見る」

神の栄光に輝くメシアが王として到来し、メシアの王国の王座に着き、メシアの王国が立つ日が来る。その日、イエスは神の栄光に輝くお方として到来するであろう。ペテロたちは、その栄光に輝くイエスの姿を、ヘルモン山の山上であらかじめ見せていただいたのである。

(2) 「力をもって」・・・特に「死を打ち破る力」である。メシアの王国に入る信者たちには、次の3種類がある。

- ① 肉体の死を経て、復活し栄光の体を与えられて、メシアの王国に入る信者
- ② 肉体の死を経験しないで、栄光の体に変換されてメシアの王国に入る信者
- ③ 大患難期を生き延びて、肉体のいのちを持ったままの状態でもシアの王国に入る信者（イスラエル民族と諸国民）。この人たちは、千年間の王国時代が終わるまで生き続け、肉体の死を経験しないで栄光の体に変換されて、新天新地（永遠の秩序）に行く。

ヘルモン山上は、いわばメシアの王国を予表する舞台。王なるイエスがいて、3種類の信者たちがいることを指し示している。①をモーセ、②をエリヤ、③をペテロたち3人の弟子（山上で、普通の肉体のいのちで生きているのは、この3人）。

10. 雲の中で響いた父なる神の声、「これはわたしの選んだ子、愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」とは・・・

メシア預言と関係する。父なる神がイエスを、旧約聖書で預言されたメシアであると認証した。

- (1) メシアは「わたしの子」（詩2：7～9）。メシアはダビデの子孫として生まれるが、神の子とされ、永遠に生きて神の国を統治する（I歴17：11～14）。
- (2) メシアは「わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者」（イザヤ42：1）
- (3) メシアは、「モーセのような一人の預言者」とも呼ばれる。メシアの口には主のことばが授けられるので、イスラエル民族は「彼に聞き従わなければならない」（申命記18：18～19）